

## 『久留米市新総合計画・基本構想』における体系の一部見直しについて

### 1 見直しの趣旨

『久留米市新総合計画・基本構想』は、長期的な都市づくりを進めるため、地域社会の将来の目標とその達成のための基本的な施策を明らかにした都市づくりの指針です。

現在の基本構想は、平成13年に策定したもので、21世紀の最初の四半期を対象と捉え、概ね25年後となる平成37年の久留米市の姿を展望した上で、基本理念や目指す姿、それを達成するための施策の方向性や柱について、包括的に記述したもので、現在においても有効な内容となっています。

しかし、基本構想の策定から10年が経過し、この間に生じた社会経済情勢や時代潮流の動きの中で、課題の重要性等に変化が見られるものがあります。

このことから、今般、次期基本計画の策定及び構想の折り返し点を迎えるにあたり、より時代に則した、そして市民の皆さんにわかりやすい地域社会計画とするため、基本構想の体系について、その内容や表現の一部見直しを行います。

### 2 基本的な考え方

- ・ 現行の基本構想に掲げる基本目標、基本方針等の骨格部分については、基本構想が長期的な将来展望に基づき、都市づくりを巡る諸課題への対応の方向性を大綱的且つ網羅的に記述したものであること、また構想期間の中間段階にあることから、基本的には踏襲します。
- ・ 施策の方向性や柱については、社会経済情勢や時代潮流の変遷に伴う課題の重要性等の変化によりの確に対応するため、一部見直しを行います。
- ・ 体系上の表現についても、市民の皆さんによりわかりやすい構想となるよう、あわせて見直しを行います。

### 3 基本構想策定後の状況の変化

- ・ 基本構想の策定以降に生じた、都市づくりや市民生活に特に大きな影響を与えるような社会経済情勢や時代潮流の変化として、次のようなものが挙げられます。

## **(1)東日本大震災の発生と大規模な自然災害の頻発**

未曾有の被害をもたらした東日本大震災や頻発する自然災害の経験・教訓、また、治安や事故、感染症への不安感、さらには食の安全性への信頼感を損なう事案の発生等を背景として、国民の意識においては、安全・安心を希求するとともに、人々の絆意識を高め、傷を癒すような、心の豊かさが重視されるようになっていきます。また、東日本大震災を一つの契機としたエネルギー問題への意識の高まりは、地球環境問題に適合した生活様式の転換を全世界的な課題として私たちに問いかけることになりました。

久留米市においても、東日本大震災に際して、物心両面での被災地・被災者支援に全市を挙げて取り組むとともに、昨年7月には、昭和28年の大水害以来の記録的豪雨となった九州北部豪雨を経験するなど、自然の猛威を目の当たりにしました。また、犯罪や事故等への不安感も根強く、市民の皆さんの安全安心を求める意識はさらに強まっており、平成24年度に行った市民意識調査では、市民が望む将来のまちの姿として、半数以上が、防災や防犯の行き届いた安全・安心なまちを挙げています。

## **(2)人口減少・超高齢社会の本格化**

少子高齢化を主要因とした人口減少社会への移行は当初の想定を超えた速度で進行し、既に世界に先駆けて、本格的な人口減少・超高齢社会に突入しています。今後もこのような人口の趨勢は継続すると予測され、都市構造のあり方や経済の持続性、地域コミュニティの維持・強化、高齢者をはじめとする関与や支援を必要とする人々への生活支援のあり方など、人口減少・人口構造の変化等によって生じる諸課題が、あらゆる分野で一層先鋭化するものと考えられます。

久留米市においても、平成17年以降、人口は減少に転じ、また、高齢者人口が増加しているため、想定していたよりも早い速度で、人口減少・超高齢社会が本格化しています。

## **(3)広域合併の実現と地方分権の進展**

所謂“平成の大合併”や、数次にわたる権限移譲の実施、さらには、都市制度のあり方や道州制などの地方自治構造に関する議論も進められるなど、地方分権が進展し、その中での地方自治体の有り様が問われています。

久留米市は、平成17年2月に、広域合併を実現し、平成20年の中核市移行、平成22年の定住自立圏構想など、県南の中核都市として、圏域を先導する久留米市の役割は一層重要となっています。

#### (4) グローバル化の進展

経済や文化、学術研究など多くの分野で人・モノ・情報等が国境を越えて活発に交流するグローバル化が進展し、都市間競争は国内から国外も含めたものに拡大しています。また、経済成長が著しく世界経済の成長エンジンとされるアジアの活力を都市発展に取り込む重要性が高まっています。一方で、高度経済成長が期待できない中では、限られた資源の有効活用、創意工夫による高付加価値型産業構造への転換を図り、より創造的、革新的な技術やノウハウを育て、新しいビジネスや産業を生み出すことが重要となっています。

久留米市でも、福岡県と連携しながら、アジアの活力を取り込み、環境を軸とした産業の競争力を強化する「グリーンアジア国際戦略総合特区」の取組みを進めており、九州の交通の要衝としての地理的優位性を活かして、アジアの活力を取り込んでいくことが求められています。

#### 4 概要

『久留米市新総合計画・基本構想』の体系について、次のように見直します。

- (1) 環境の変化への対応 ⇒ 施策の方向性を見直し(新設2、統合1、拡充1)
- (2) わかりやすい表現への工夫 ⇒ 表現の見直し(目指す都市の姿1、施策の方向性5)

#### 5 具体的な見直し案

##### (1) 環境の変化への対応

特に影響の大きい社会経済情勢や時代潮流の変化に伴う課題の重要性の高まりに的確に対応するため、施策の方向性を一部見直しました。

①「安全で安心して暮らせるまち」を施策の方向性として位置づけました。

…安全安心な生活の確保に対する意識やニーズの高まりに対応し、重点的な取組みを進めるため、施策の方向性において、明確化を図りました。

②「心豊かな市民生活を創造するまち」を施策の方向性として位置づけました。

…文化芸術やスポーツ等を通じた心の豊かさ、質の高い暮らしを求める意識やニーズに対応し、重点的な取組みを進めるため、施策の方向性において、明確化を図りました。

③「拠点都市の役割が果たせるまち」と「圏域とともに歩むまち」を統合し、「拠点都市の役割を果たすまち」としました。

…人口減少・超高齢社会の本格化によって生じる諸課題に対応するとともに、分権時代を先導する都市づくりを進めるため、施策の方向性において、整理を図りました。

④「アジアに開かれた学術研究のまち」を「アジアに開かれたまち」へ拡充しました。

…グローバル化の中で、経済や文化などより幅広い分野でアジアの活力を取り込み、活力ある持続的発展を図る取組みを推進するため、施策の方向性において、整理を図りました。

## (2)わかりやすい表現への工夫

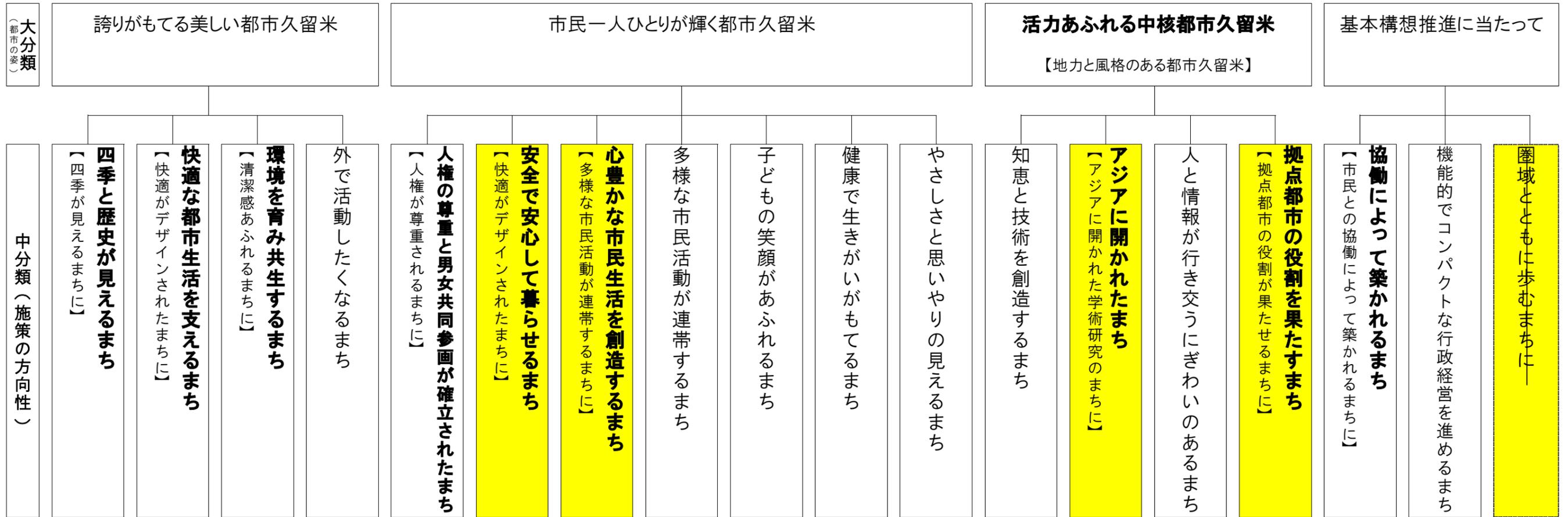
市民の皆様からのご意見も踏まえ、市民の皆さんにとって、取り組む内容がより伝わるものになるよう表現を見直しました。

| 区分      | 現行               | 見直し案                 |
|---------|------------------|----------------------|
| 目指す都市の姿 | 地力と風格のある都市久留米    | 活力あふれる中核都市久留米        |
| 施策の方向性  | 四季が見えるまち         | 四季と歴史が見えるまち          |
|         | 快適がデザインされたまち     | 快適な都市生活を支えるまち        |
|         | 清潔感あふれるまち        | 環境を育み共生するまち          |
|         | 人権が尊重されるまち       | 人権の尊重と男女共同参画が確立されたまち |
|         | 市民との協働によって築かれるまち | 協働によって築かれるまち         |

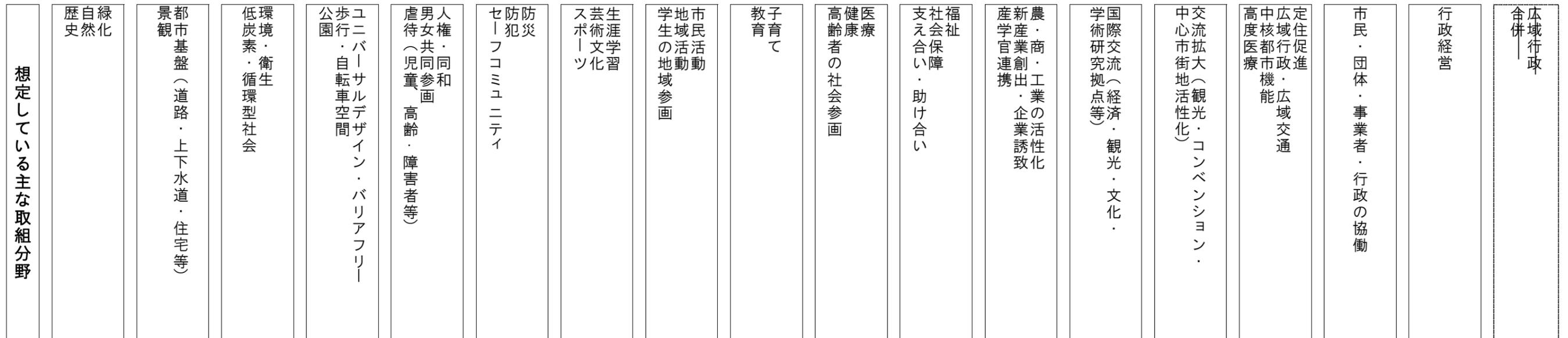
# 水と緑の人間都市

- ・個の存在や個性を尊重し、その自立性を大切に
- ・自然と都市、人と人、人と自然の共生を大切に
- ・本市の誇る地域資源である水と緑を大切に

※ 網掛け部分は、枠組みを見直した箇所  
 ※ 太字は、表現を見直した箇所(【】は、現基本構想の表現)

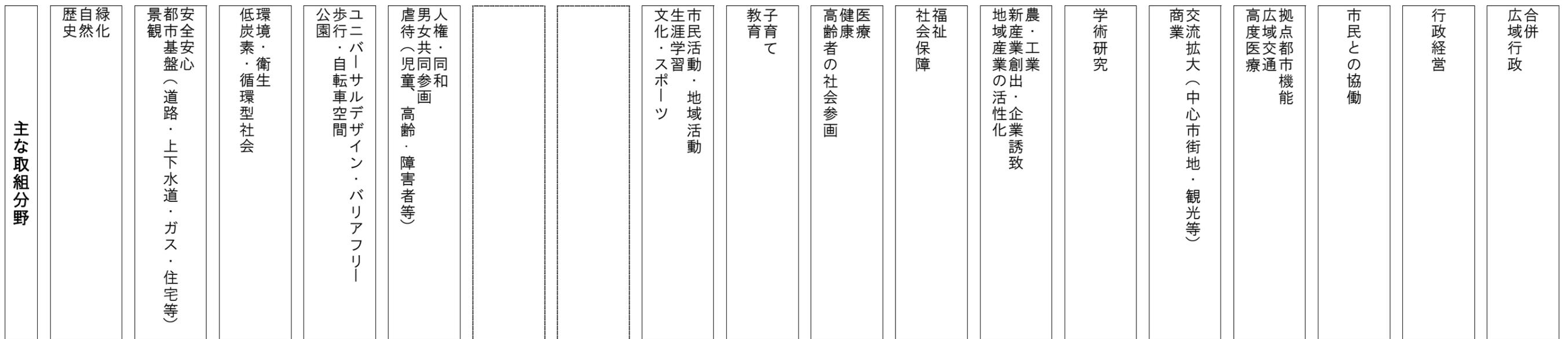
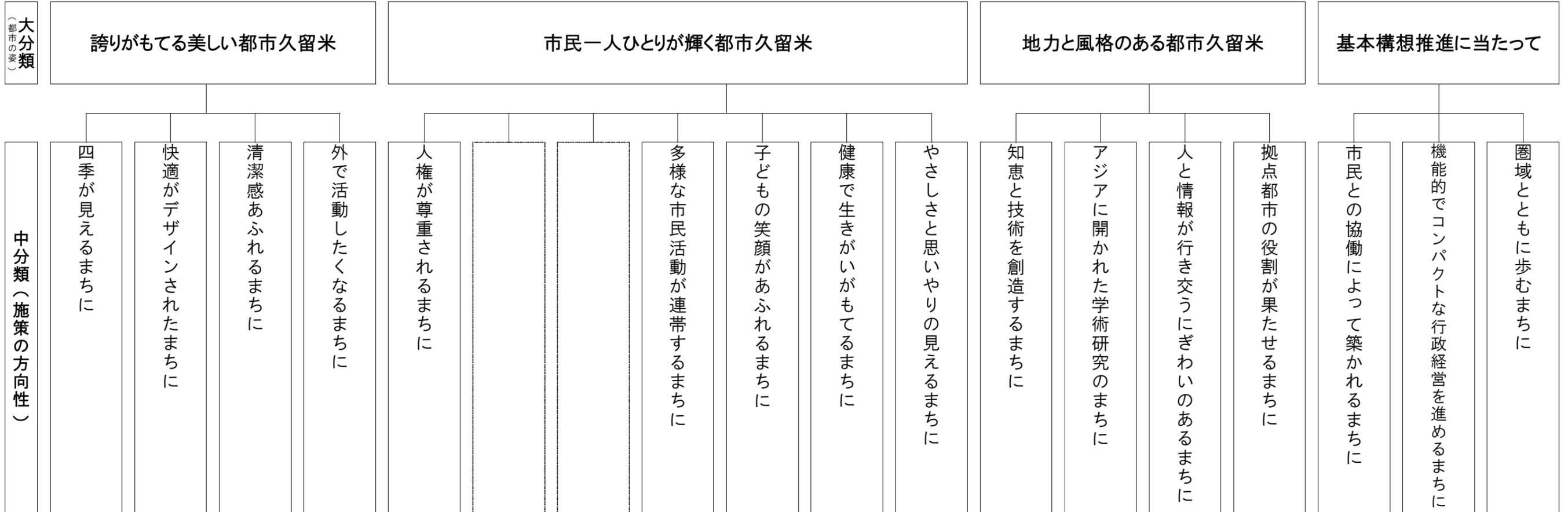


《参考》 以下は、現計画を基本とした想定であり、今後、次期基本計画を策定する過程で整理する予定。



# 水と緑の人間都市

- ・個の存在や個性を尊重し、その自立性を大切に
- ・自然と都市、人と人、人と自然の共生を大切に
- ・本市の誇る地域資源である水と緑を大切に



主な取組分野